

2 循環型社会形成への取組み

1 廃棄物のゼロエミッション活動の展開

3Rを推進する廃棄物ゼロエミッション活動を展開しています。

(1) 産業廃棄物

当社が排出する産業廃棄物には、火力発電所の運転に伴う副産物（石炭灰、石こう）や工事に伴う撤去資材などがあります。これらの産業廃棄物については、適切な管理・処理を行うとともに、発生量の抑制（Reduce:リデュース）、再使用（Reuse:リユース）、再生利用（Recycle:リサイクル）の3Rを実践しています。

産業廃棄物の発生量とリサイクル率（2011年度）

	発生量 (トン)	リサイクル量 (トン)	リサイクル率 (%)	主なリサイクル用途	
石炭灰	731,797	731,797	100	セメント原料 コンクリート混和材	
その他産業廃棄物	重原油灰	2,249	2,249	100	バナジウム回収
	石こう	116,835	116,835	100	セメント原料
	汚泥	3,900	1,950	50	セメント原料
	廃油	3,029	3,012	99	燃料油に再生
	廃プラスチック類	361	284	79	助燃材
	金属くず	15,754	15,747	約100	金属材料
	廃コンクリート柱	14,491	14,491	100	路盤材、建設骨材
	ガラス・陶磁器くず	109	108	99	ガラス製品材料
	特別管理産業廃棄物*	869	469	54	セメント原料
	その他	96	88	92	助燃材
小計	157,693	155,233	98		
産業廃棄物総合	889,491	887,030	約100		

(注)四捨五入のため合計値が合わないことがある。

*:「廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）」において、人の健康または生活環境に係る被害を生ずる恐れがある性状を有するため特別管理産業廃棄物として規定されている汚泥、廃石綿等、廃油、廃アルカリ及び廃酸。

産業廃棄物の発生量とリサイクル率の推移については九州電力ホームページ
関連・詳細情報（P2参照）産業廃棄物の発生量とリサイクル率

● 発生量の抑制（リデュース）への取組み

発電所では、発電設備の保全リスク管理*を徹底しており、これに基づく適切な工事計画の策定・実施により、廃棄物の発生量抑制に取り組んでいます。

*: リスクマネジメントの考え方を設備保全に適用した手法の一つであり、設備の劣化・破損・故障に起因する種々の影響をリスクとして捉え、そのリスクの大きさに応じて設備保全方針を決定していく手法。

● 再使用（リユース）への取組み

配電工事等で撤去した電力用資機材については、再使用に必要な性能、品質を有しているかなどを適正に判断し、再使用しています。

配電用資機材の再使用状況（2011年度）

	撤去数*[A]	再使用数[B]	再使用率[B/A](%)
柱上変圧器(台)	23,718	23,718	100
柱上ガス開閉器(台)	1,091	1,091	100
低圧電力量計(個)	1,001,093	904,932	90
コンクリート柱(本)	6,402	6,402	100
高圧線(km)	506	506	100
低圧線(km)	1,243	1,243	100

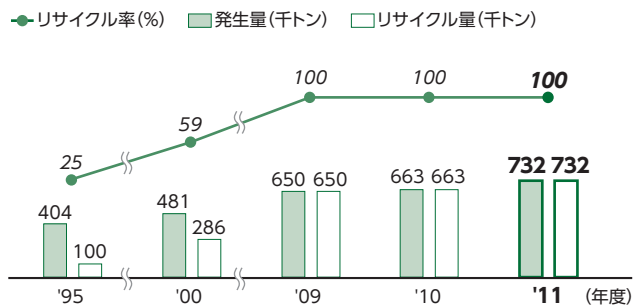
*: 旧仕様・型式等により、再使用できないものや修理対象外のものは除く。

● 再生利用（リサイクル）への取組み

2011年度は、発生した産業廃棄物約89万トンをはほぼ100%リサイクルしました。産業廃棄物の大部分を占める石炭灰については、石炭灰の特性を活かしたセメント原料などへの有効利用を行っており、100%リサイクルしています。

詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報（P2参照）石炭灰の有効活用

石炭灰の発生量とリサイクル率

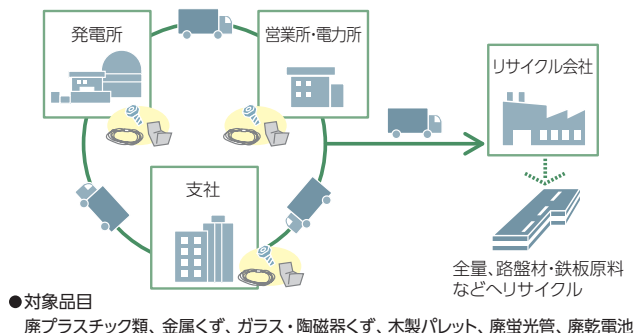


その他の取組みについては九州電力ホームページ
関連・詳細情報（P2参照）配電用資機材の再生利用状況

● 産業廃棄物の共同回収

全社的かつ恒常的に発生している産業廃棄物については、対象品目を定め、複数事業所を一括回収後、全量リサイクルする「共同回収」を行っており、リサイクル率向上に加え、効率的回収による輸送面での環境負荷低減にも努めています。

共同回収の流れ



用語集を
ご覧ください

- 循環型社会
- 石炭灰
- バナジウム
- ゼロエミッション
- 石こう
- 柱上変圧器
- 3R (4R)
- リサイクル率
- 汚泥
- 柱上ガス開閉器
- 産業廃棄物
- 重原油灰
- リスクマネジメント

第三者機関による審査を受審したデータ